

西中だより

平成28年度 No.10
平成28年 7月 5日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

県大会出場者紹介

- 7月6日・7日、とうほうみんなのスタジアムで行われる陸上競技県大会へ出場する選手を紹介します。(敬称略)当日は、補助(選手を助ける)として、5人の友達も参加します。選手は、天候に左右される中でも体調管理に注意しながら、一生懸命に練習してきました。大会当日は、自分の力を十二分に発揮して、ベストの記録を出してくれることを祈ります。

- ・3年 100m 安田 颯太
- ・共通 800m 名越 敬冬
- ・1年1500m 横田 星那
- ・共通3000m 橋本 尚幸
- ・男子砲丸投げ 倉田健太郎
- ・女子砲丸投げ 村越 桜佳



同窓会に参加して

- 5月末に中学校の同級生から、還暦の年を迎え中学校最後の同窓会を6月25日に同窓会を開催するという手紙が届いた。恩師も出席するから是非顔を見せてほしいとの依頼も添えてあったので、喜んで出席させてもらう意向を伝えた。
- 当日、受付を済ませて席に着いた。拍手で5人の恩師が入場された。わが恩師は、当事一番若くてハンサムな先生であった。その面影は、年を重ねても健在であった。(髪の色が黒から白へ変わっただけである。)乾杯の前に記念写真をクラス順に撮影した。恩師の近くには美女が揃い、恩師も久しぶりに笑顔が絶えない。その横顔を見ながら、感動と同時に何か寂しさを覚えた。乾杯の後、いろいろな話題で昔の友と話し合えた。約十年振りの再会なのに、自然と話が湧き上がるから不思議なものである。
- 福島県の人間になってから、早いもので42年目を迎える。何歳になっても故郷は、友はよいものである。さて、自然環境に恵まれ、伝統ある西袋中学校で教員生活の最後を迎えることができるのも何かの縁を感じる。ここで出会えた生徒達や先生方に、何年か後に同窓会が開催された時、楽しい思い出話で会が盛り上がるような学校づくりに努めていきたい。最後の情熱を傾けて、文武両道を貫き、苦境に負けないで、頑張る生徒達を先生方とチーム西袋中の意識で育てていきたい。

《 校長のつぶやき 》・・・夏休みを有意義に過ごすために・・・

- 私が話すことはいつも何十年前に体験した自分の失敗や苦い経験が根本にあります。小学校1年生の夏休みは、3日間で「夏休みの友」を終え、残りの大半を朝から晩まで遊んで過ごした。当然、2学期の始業式前の1週間は、今でも覚えているくらい悲惨な日々でした。(失敗しても、つまずいても自分で取り組んだことは貴重な学習の証です。次から、まずかった所を修正すればよいのです。)
- 6年生の夏休みは、自由研究につまずきました。計画を立てずにスタートしたので、やはり失敗でした。何とかしないといけないという気持ちで、1週間夢中で取り組みました。しかし、学級内の発表会では、友達の自由研究に比べ、自分の研究のレベルの低さに赤面したものです。(計画作りが大切!)
- 中学校では、1年生の時は夏休みまでが非常にきつかったことを覚えています。勉強の量も多くなり、部活動で疲れ、夜は眠くてなかなか勉強ができませんでした。しかし、不思議なもので、夏休みが過ぎた頃から、徐々に体力も付き少しずつ夜の勉強時間も思うようにできるようになりました。部活動も1・2年生による新しいチームがスタートし、新たなやる気が生まれました。(がまん辛抱が大切です!)
- 3年生の夏は部活動を引退し、それまでの生活のリズムが変わります。焦らず、部活動にあてていた時間を徐々に勉強に関係した時間にしていけばよいと思います。私は顧問の先生に話して、秋の新人戦の頃まで1・2年生に教えるという立場で、時々部活動に参加し、一緒に汗を流しました。ただ、目の前の大切な課題には正面から取り組み、計画を立てることに時間を使い、焦らないで日々を過ごすようにしました。3年生の皆さんに、夏休みを前向きに過ごすために、次の言葉を贈ります。・・・{目標なくして、計画なし。計画なくして、努力なし。努力なくして、成功なし。成功なくして、成長なし。}自分で立てた目標に向かい、計画をしっかりと立て、無理なく無駄なく、一日一日を過ごしてください。

